

株式会社ツムラ  
2019年度 第3四半期決算  
(2019年4月1日～2019年12月31日)  
カンファレンスコール

2020年2月10日(月)

取締役常務執行役員CFO 半田 宗樹

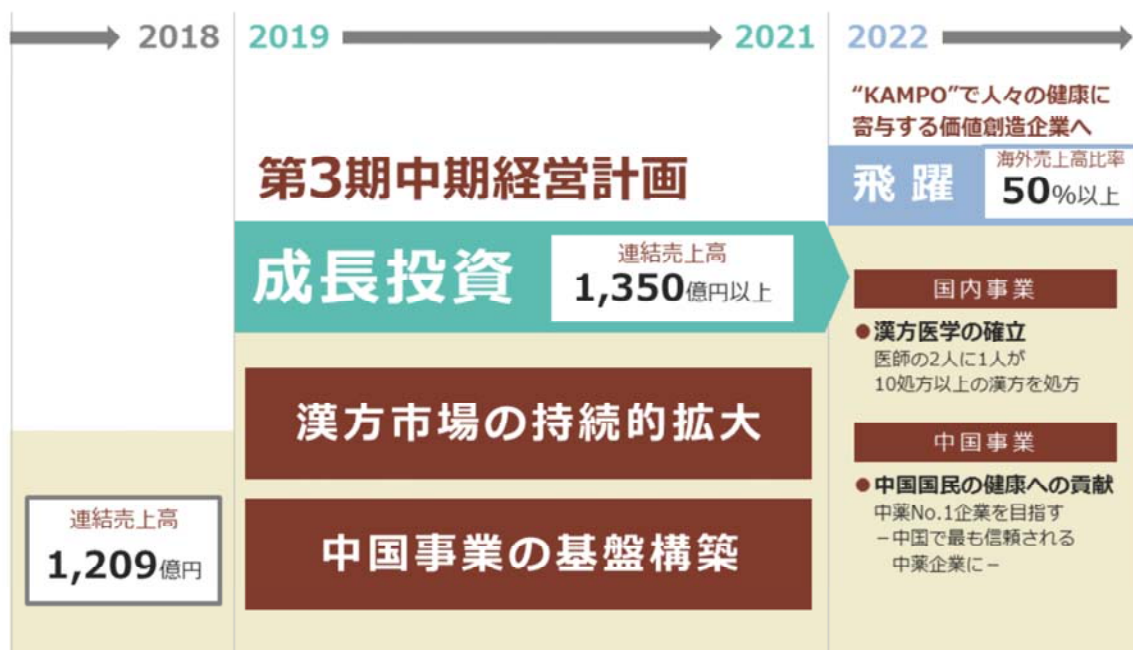
皆様こんにちは。CFOの半田でございます。

本日はお忙しい中、2019年度 第3四半期 カンファレンスコールにご参加いただき誠にありがとうございます。

また、日頃より当社ならびに漢方に、多大なご支援、ご理解を賜り、重ねて御礼を申し上げます。

2019年度第3四半期の決算概要についてご説明します。

## 長期経営ビジョン実現へのロードマップ



2019年5月に発表いたしました長期経営ビジョン実現へのロードマップです。2019年度から始まる[第3期中期経営計画](#)は、成長投資のステージと位置づけています。

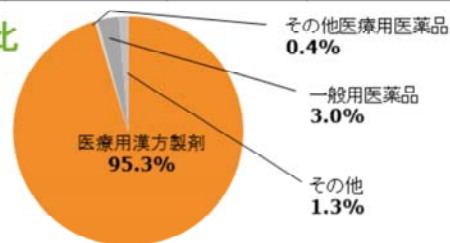
計画の指針として、国内の「漢方市場の持続的拡大」と「中国事業の基盤構築」のための積極的な成長投資を行い、第3期中期経営計画最終年度である2021年度の連結売上高は1,350億円以上を目指しています。

## 2019年度 第3四半期決算の概要

(百万円)

	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年同期比		通期計画	
			金額	伸長率	金額	進捗率
売上高	92,010	95,185	3,175	3.5%	125,000	76.1%
営業利益 (営業利益率)	15,280 (16.6%)	16,151 (17.0%)	871	5.7%	17,000	95.0%
経常利益	16,094	16,675	581	3.6%	18,000	92.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,731	11,690	△41	△0.3%	12,300	95.0%

売上高構成比



3

2019年度第3四半期決算の概要はご覧の通りです。

売上高は、前年同期と比べ、3.5%増の95,185百万円となりました。

通期計画進捗率は、76.1%です。

営業利益は、前年同期と比べ、5.7%増の16,151百万円となりました。通期計画進捗率は、95.0%と高めではありますが、これは研究開発費や販売促進費など、支払いの期ズレが発生していることが主因です。

経常利益は、前年同期と比べ、3.6%増の16,675百万円となりました。

四半期純利益は、前年同期と比べ、0.3%減の11,690百万円となりました。

## 決算のポイント

### 前年同期と比べ、増収微減益の決算

売上高	95,185 百万円	前年同期比	+3.5%
-----	------------	-------	-------

- 医療用漢方製剤129処方 of 売上高は、前年同期比+3.3%、金額ベースで80処方が伸長しました。
- OTC医薬品の売上高は、前年同期比15.6%伸長しました。

営業利益	16,151 百万円	前年同期比	+5.7%
------	------------	-------	-------

営業利益率	17.0%	前年同期比	+0.4pt
-------	-------	-------	--------

- 売上原価率は、生薬関連コストが低減したものの、未実現利益の影響により41.1%(前年同期比+0.4pt)となりました。
- 販管費率は、販売感謝金、研究開発費が増加したものの、売上高増加により41.9%(前年同期比△0.8pt)となりました。

経常利益	16,675 百万円	前年同期比	+3.6%
------	------------	-------	-------

親会社株主に帰属する

四半期純利益	11,690 百万円	前年同期比	△0.3%
--------	------------	-------	-------

- 関係会社の清算を決定したことに伴う出資金評価損として 419百万円を特別損失に計上しました。

第3四半期決算のポイントです。

売上高は、10月に薬価改定がありました。医療用漢方製剤が前年同期と比べ3.3%増加したこと、薬局用漢方・一般用漢方などのヘルスケア国内販売が好調であったことなどから、95,185百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

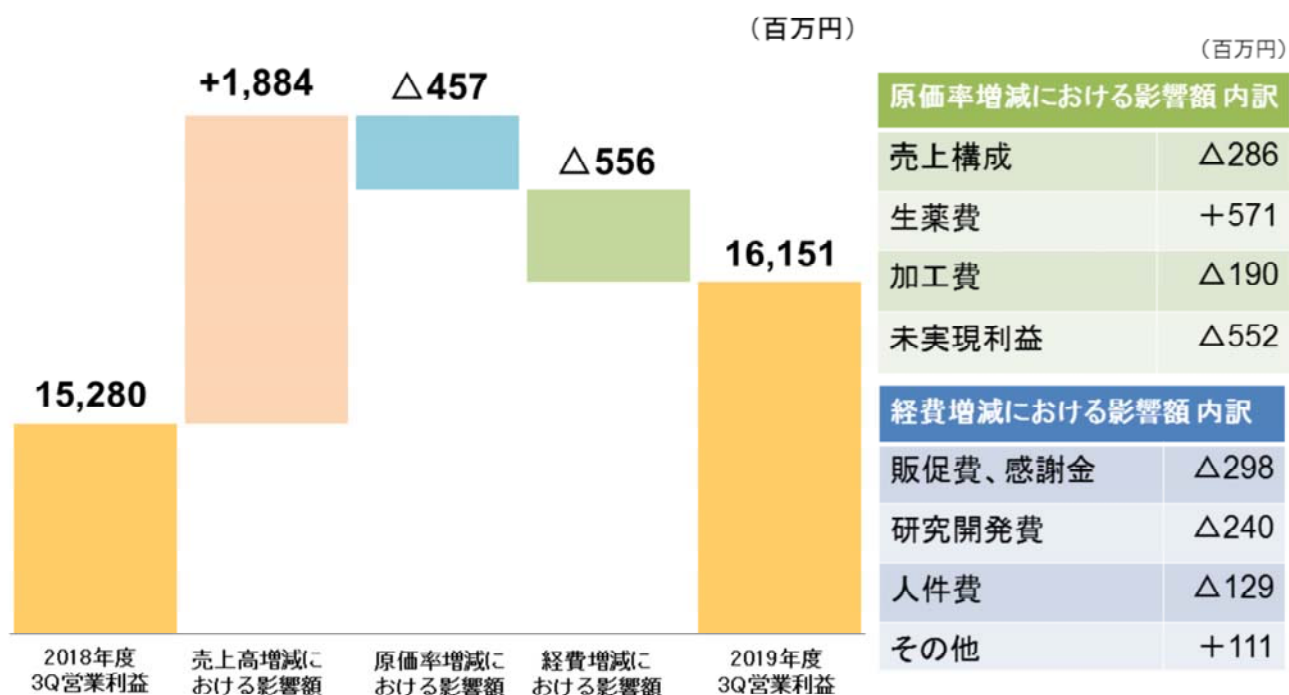
売上原価率は41.1%となりました。前年同期と比べ、生薬関連コストは低減しているものの、グループ間取引における在庫増加に伴う未実現利益の増加により0.4ポイント悪化しました。

販管費率は41.9%となりました。前年同期と比べ、販売感謝金、研究開発費が増加したものの、増収効果により0.8ポイント改善しました。

昨年10月31日付のリリース「[中国における合弁会社の解散および清算に関するお知らせ](#)」にて開示しました通り、当社の中国における合弁会社「上海上薬津村製薬科技有限公司」の解散および清算の決定に伴う関係会社出資金評価損として419百万円を特別損失に計上しました。

その影響で、四半期純利益は 11,690百万円となりました。

## 営業利益の増減要因(前年同期比較)



次に、営業利益の増減要因です。

売上高が、前年同期と比べ、3,175百万円増加しており、営業利益に与える影響額は、1,884百万円となりました。

原価率の増減における影響額は、△457百万円となりました。

内訳の主なものとして、営業利益のプラス要因では、生薬費の低減による571百万円、営業利益のマイナス要因としては、未実現利益の増加552百万円となりました。

販管費については、その他経費の削減に努めたものの、売上増加に伴い、販促費、感謝金が298百万円増加していること、加えて研究開発費、人件費などが増加したことにより、当第3四半期における営業利益は、16,151百万円となりました。



## 財務状態

### バランスシート

(百万円)

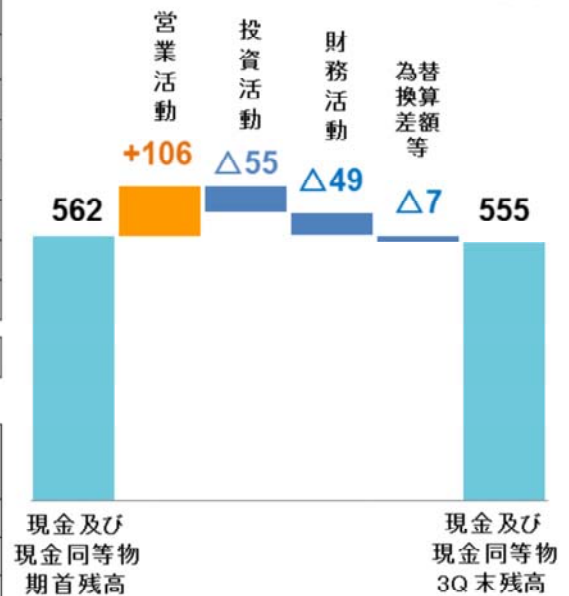
	2019年 3月末	2019年 12月末	増減額
資産合計	287,322	286,183	△1,139
流動資産	190,027	185,325	△4,701
固定資産	97,295	100,857	3,562
負債合計	81,181	77,723	△3,457
流動負債	33,320	30,588	△2,732
固定負債	47,861	47,135	△725
純資産合計	206,141	208,460	2,318
自己資本比率	70.2%	71.4%	1.2pt

(百万円)

B/S	2019年 3月末	2019年 12月末	比較増減
たな卸資産	51,808	56,490	4,682
(商品及び製品)	9,382	7,361	△2,021
(仕掛品)	11,125	12,467	1,342
(原材料及び貯蔵品)	31,299	36,660	5,361

### キャッシュ・フローの状況

(億円)



6

次に財務状態についてご説明します。

バランスシートですが、棚卸資産が、戦略在庫の増加の影響で、前年度末に比べ、4,682百万円増加しました。

当第3四半期の総資産は286,183百万円、純資産は208,460百万円となり、自己資本比率は1.2ポイント増加して71.4%となりました。

次にキャッシュフローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローでは、減価償却費の影響を除いた四半期純利益に対し、売上債権およびたな卸資産がそれぞれ増加したことにより、106億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、主に定期預金の減少、子会社出資金取得による支出などで55億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、配当金の支払いなどにより49億円の支出となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ7億円減少し、555億円となりました。

## 医療用漢方製剤(育薬処方・Growing処方)売上高

(百万円)

	売上順位	製品No./処方名	2018年度 3Q実績	2019年度 3Q実績	前年同期比	
育薬処方	1	100 大建中湯	8,053	8,023	△30	△0.4%
	2	54 抑肝散	5,916	6,028	111	1.9%
	3	43 六君子湯	5,564	5,726	161	2.9%
	9	107 牛車腎気丸	2,794	2,813	18	0.7%
	22	14 半夏瀉心湯	1,030	1,094	64	6.2%
育薬処方合計			23,360	23,685	325	1.4%
Growing処方	4	41 補中益気湯	5,597	5,589	△7	△0.1%
	5	68 芍薬甘草湯	3,970	4,112	141	3.6%
	6	29 麦門冬湯	3,530	3,682	151	4.3%
	7	24 加味逍遙散	3,533	3,621	88	2.5%
	8	17 五苓散	3,199	3,522	323	10.1%
Growing処方合計			19,830	20,528	698	3.5%
育薬処方・Growing処方以外の119処方 合計			41,395	42,759	1,364	3.3%
医療用漢方製剤 129処方合計			87,834	90,722	2,888	3.3%

医療用漢方製剤129処方伸長率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 1Q	2019年度 2Q	2019年度 3Q
金額ベース	2.4%	2.3%	1.9%	2.4%	2.7%	3.3%	4.2%	3.3%
金額伸長処方数	81	68	95	63	83	80	87	80

7

次に、医療用漢方製剤の売上高についてです。

医療用漢方製剤129処方合計の売上高は、90,722百万円、前年同期比2,888百万円の増加、3.3%の伸張となりました。育薬5処方の売上高は、23,685百万円、前年同期比1.4%増、Growing処方は、20,528百万円 前年同期比3.5%増となりました。その他の処方、いわゆる育薬5処方・Growing処方以外の119処方の合計は、前年同期比3.3%増となりました。

厳しい医薬品市場の中で、前年同期比3.3%増と堅調に推移しましたが、育薬処方である大建中湯・六君子湯・抑肝散は、更なる伸長が必須だと考えております。

大建中湯については、病院市場に対する取り組みを強化しております。大建中湯の特徴である「腸管運動亢進作用」の動画や腸管血流改善を訴求するプロモーション活動を推進し、若手の医師・看護師など多職種の方に参加いただく病棟説明会の開催を進めております。

3月には外科系の医師を対象にしたWeb講演会を開催し、多くの先生方に大建中湯の適正使用をお伝えしてまいります。

また、昨年9月、エムスリー株式会社のWeb講演会にて、「Kampo Mega Web講演会」を開催し、17,878名の医師に視聴いただきました。

視聴いただいた先生方へのフォローを継続した結果、視聴された医師が勤務する病院は、視聴3ヶ月後には全国平均の伸張率と比べてプラス6%実績が伸張いたしました。

12月には、「風邪、頻尿、不眠、めまい」といったテーマでMega Web講演会第2弾を開催しました。

今回の視聴者数ですが、前を上回る18,855名となりました。視聴いただいた医師へのフォローを継続して行い、漢方医学の更なる普及に努めてまいります。

引き続き、医師への面談、医療機関説明会、漢方医学セミナーを基本とし、基礎・臨床エビデンス、漢方製剤掲載の診療ガイドラインおよび漢方医学的な処方を使い分け等に関する適切な情報提供活動を実施してまいります。



## 株主還元

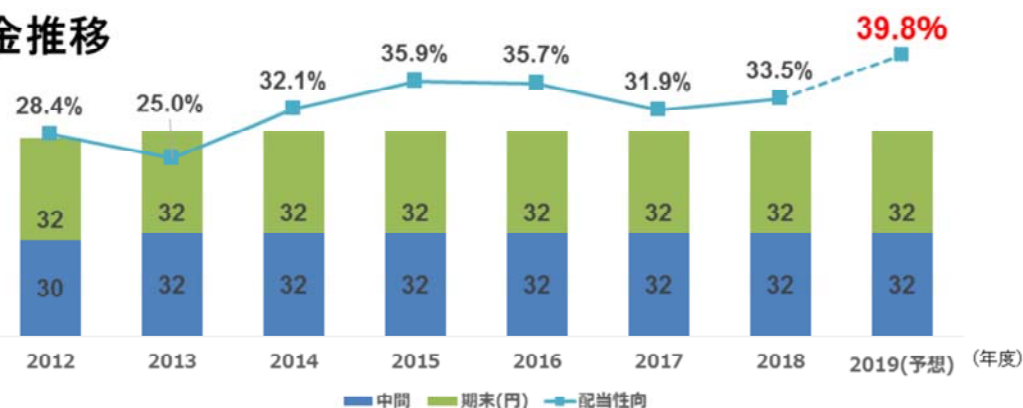
株主還元について説明させていただきます。

## 株主還元

### 方針

- “漢方”事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する

### 配当金推移



(注)2019年度の期末配当金および配当性向(予想)は、第84回定時株主総会による配当議案が決議された場合の数値を記載

年間配当予想額は、期初の計画通り、64円としております。  
配当性向は、先ほどの業績予想ベースで、39.8%を予想しております。

引き続き、漢方事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて企業価値の向上を図るとともに、中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定的かつ継続的な配当を目指し、経営に邁進してまいります。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ

コーポレート・コミュニケーション室

広報グループ

IR推進グループ

TEL: 03-6361-7100

TEL: 03-6361-7101

見直しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見直し情報」を含みます。これら見直しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見直しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

最後に、中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルスに関する当社グループへの2月10日時点での影響につきましてご報告いたします。

2月7日付「[中国における新型コロナウイルスの影響について](#)」に記載の通り、当社の中国における事業活動ですが、上海津村製薬有限公司は2月10日に操業を再開しました。

深圳津村製薬有限公司は、すでに政府から稼働の許可を得ている状態であり、政府からの通達があれば操業を再開できる見通しです。なお、現時点で漢方製剤等の供給への影響はありません。

以上で説明を終わります。